



# TOYOTA SUPRA × ZISTANCE W5S

[JZA80]



シンプルにスポーツスタイルを突き詰め  
ラグジュアリーなジスタンスをブチ込む!!

## Cover Machine

### 第1回 ワーク フォトコンテスト

~金賞~

2020年末から2021年始にかけて募集・開催された「ワークフォトコンテスト」。ワークホイールを装着した車両の写真応募し、構図やアングルはもちろん、被写体のカッコよさも審査基準に含めた写真作品のコンテストだ。そして、ワーク全社員の投票によって「金賞」に選ばれたのが、ここで紹介するJZA80スープラ。26歳の若者が情熱を注いで作り上げた、そのグッドセンスを見ていこう!!

#### Specifications

■エンジン：トラスト・インタークーラー/genjimiki・マフラー  
■サスペンション：ACC・エアサス(F)、コントロールユニット/ユニバーサルエアアバグ(R)/CST・ダンパー(R)/ZSS・アッパー

アーム(F)、トーコンロッド(R)/Tデイメンド・アッパーアーム(R)/メーガシレーシング・テンションロッド(R)  
■ブレーキ：LS600h純正キャリパー(F)/V36スカイライン純正355φローター(F)

■ホイール：ワークジスタンス W5S(F9.5J×19+29 ワイトレ40mm R10.0J×19+22 ワイトレ18mm)  
■タイヤ：F215/35R19 R235/35R19  
■インテリア：レカロ・SR-IIルマ

ン(×2)/GRIP ROYAL・ステアリング/TRD・シフトノブ/英国製本革シフトブーツ/サイドウールケージ・8点式ロールケージ  
■エクステリア：RANDO SPO RTS・フロントバンパー、サイドステ

ップ/RIDOX・リヤスパツ/純正フロントフェンダーワンオフ加工/オールベン(ヤリスクロス用シルバメタリック)/スムージング加工(リヤアンテナ、リヤワイパー、リヤウオッシャーノズル)

純正イメージを現代風にアレンジして  
ディープリムとローフォルムで魅了する



フロントバンパーとサイドステップはR ANDO SPORTS。「サイドステップ下端の直線デザインがお気に入り」とは磯野さんのコメントだ。バンパーとフェンダーが接合する部分は本来、バンパー側がやや幅広になるが(これは当時のエアロデザインの主流)、フロントフェンダーの接合箇所をパテで15mmほど広げて、繋がり感のある純正ライクなフォルムを作り出した。

ホイールは19インチの「ワークジスタンスW5S」で、ディープリムとビッグキャリパー装着を両立。ディスタンスカラーはブリリアントシルバーブラックだ。なお、キャリパーはレクサスLS600h用を流用して、ボルシェのイメージでイエローに塗装。V36スカイライン用355φローターに組み合わせる。



Cover Machine  
Work フォトコンテスト

TOYOTA SUPRA × ZISTANCE W5S [JZA80]

「S」をセレクト。なんと、他にも「ワークマイスター1」の3ピースも所有していて、気分を履き替えると言う。「スポーツ系のマイスター」に対して、ジスタンスはラグジュアリー&VIP系なんです。が、5スポークでスーブラにもパツチリ(似合う)と思っただけです」と磯野さん。実は86にも、以前のMR2にもワークの3ピースを装着するほどに、ディープリムへの執着は強かったりするのだ。

なお、ボディカラーはつい先日、ヤリスクロス用のシルバーメタリックにオールペンしたばかり。元々も199だったんですけど、新色の1LOを見てこれだ!! ってと、カラーコードを会話に織り交ぜてくるあたりはトヨタ系メカニックならではの。ちなみに、1LOは明るい銀色で、メタリックのツブツブ感が強いのが特徴らしい。

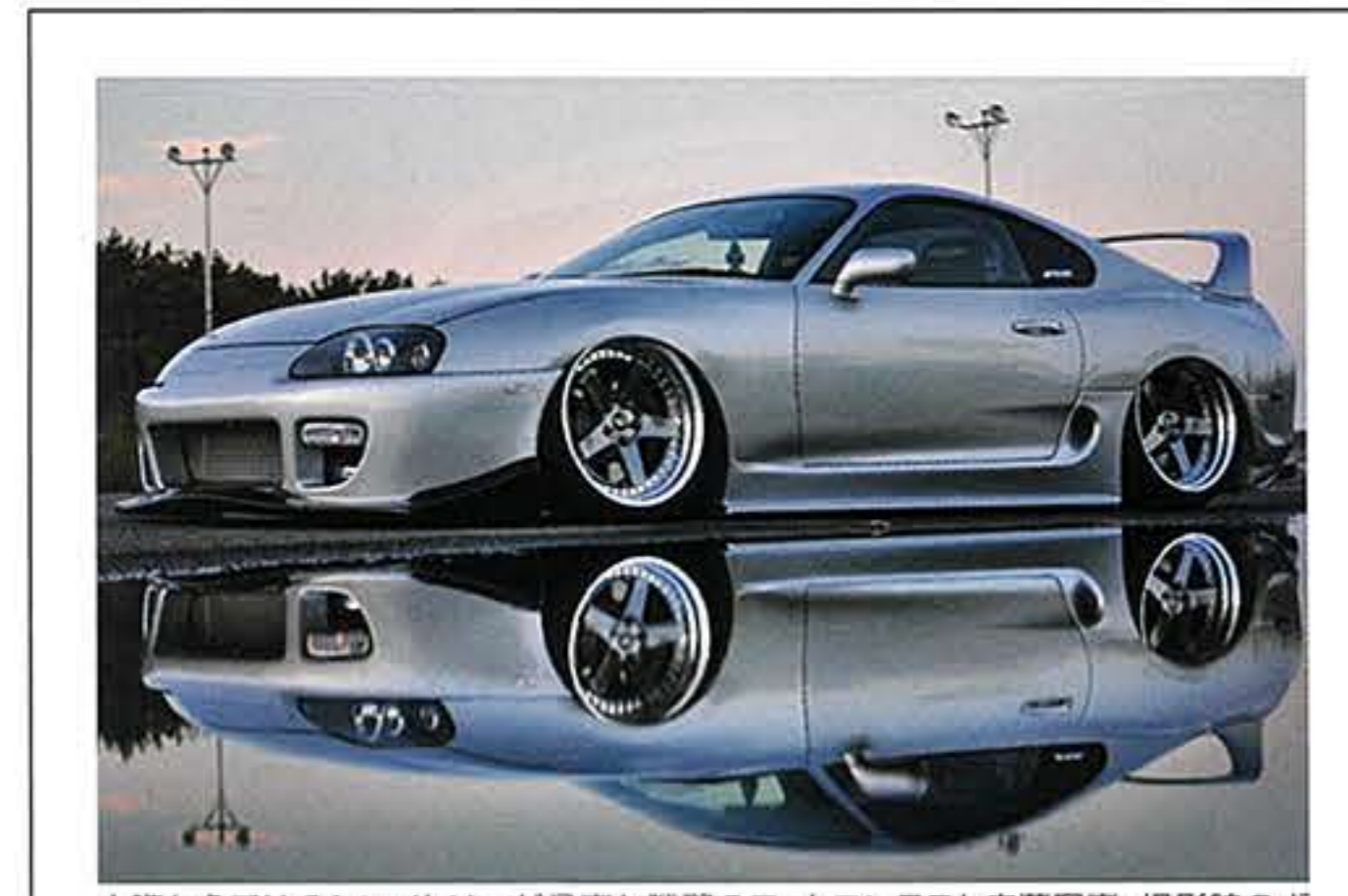
もちろん、スーブラはまだまだ進化の途中。今回のワークフォトコンテスト金賞に加えて本誌カバーを飾ったことで、さらに勢いは加速することだろう!!



ダッシュ貫通タイプのロールケージはサイドバーを含む8点式だが、クロスバーも所有していて追加が予定されている。ラグジュのサブウーファー、パワーアンプ、エアサスタックを収納するBOXは自作だ。



「ワークフォトコンテストの金賞受賞の連絡をいただいた時もめちゃめちゃ嬉しかったのに、まさかOPTの表紙になれるなんて! 本当にありがとうございます」と、明るく礼儀の正しい好青年の磯野さん。SNSアカウントは「104g」。



水際ならではのシンメトリーが見事な磯野のフォトコンテスト応募写真。撮影時のボディカラーはオールペン前のシルバー-M<199>で、現在はよりシャコタンを極めるために外したリップスポイラーを装着していた。

オーナーの磯野さんは26歳という若さながら、このJZA80型スーブラRZに加えて、普段乗り用にZN6型86もフルエアロ装備&ポルトン過給機チューン仕様で所有している生粋のクルマ好きだ。このスーブラは2年前に手に入れたのだが、それ以前もSW20型MR2でシャコタン系イベントに参加していたと言う。

「トヨタディーラーでメカニックをしているんです。大好きなクルマいじりを仕事にできているって本当に幸せですよ」と目を輝かせる。そんな磯野さんだからこそ、愛車のカスタム&チューンもできる作業は自ら手掛けることで、進化度を高めているワケだ。

こだわったのは「純正イメージを維持しながら、エアサスでとにかく低く」ということ。エアロはRAN D SPORTSのフロントバンパーとサイドステップに、RIDOXのリヤスバツと純正リヤスポイラーという、スーブラ本来の意匠を尊重した組み合わせ。フェンダーも純正をベースに叩き出してワイド化を行なって、さり気なくアップデイトを図っている。

一方のエアサスは、ネットオークションに出品されていたJZS147用を5万円で落札することに成功。この値段なら失敗しても...とあってアリスト用を買ったんですが、装着できて良かったんですけど、やはり側面車高が落ち切らなかつたので、ダンパーと同時にエアバツグも交換しましたけどね」と、このチャレンジ精神も自分で作業できる強みを増幅する。

そして、肝心のホイールはワークの3ピース「ワークジスタンスW5

こだわったのは「純正イメージを維持しながら、エアサスでとにかく低く」ということ。エアロはRAN D SPORTSのフロントバンパーとサイドステップに、RIDOXのリヤスバツと純正リヤスポイラーという、スーブラ本来の意匠を尊重した組み合わせ。フェンダーも純正をベースに叩き出してワイド化を行なって、さり気なくアップデイトを図っている。

一方のエアサスは、ネットオークションに出品されていたJZS147用を5万円で落札することに成功。この値段なら失敗しても...とあってアリスト用を買ったんですが、装着できて良かったんですけど、やはり側面車高が落ち切らなかつたので、ダンパーと同時にエアバツグも交換しましたけどね」と、このチャレンジ精神も自分で作業できる強みを増幅する。

そして、肝心のホイールはワークの3ピース「ワークジスタンスW5



前後フェンダーはツメ折りのほか、片側10mmほど叩き出している。さらに、調整式サスペンションアームを駆使したキャンバー設定でタイヤとの干渉を回避して、エアサスでのローフォルム創出を実現する。



リヤ周りは各部のスムージングでスックリ感を出しつつ、北米仕様の「Supra turbo」エンブレムを付けるなど、絶妙な足し引きが行なわれている。